

東国文化自由研究レポート



研究テーマ

なぜ、群馬には馬の埴輪が多いのか？

～馬の埴輪がある理由とは？～



YOTSUBA GAKUEN 伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

/年 /組 /番

氏名 青柳 恵

(返却希望)

なぜ、群馬には馬の埴輪が多いのか？

1、研究の動機

先生から配られた紙に書いてあった「調べるHANI-図鑑」というサイトを見て、馬の埴輪について興味を持ちました。そのサイトで馬の埴輪は群馬県で発見された動物埴輪のうち、90%が馬の埴輪だということを知り、なぜ馬の埴輪が多いのかと思い調べてみることにしました。

はじめに

古墳は3世紀から7世紀にかけて多く作られた王やえらい人達のお墓です。埴輪は古墳の上や周囲に並べ、死者の魂を守ったり鎮めたりするものと考えられているそうです。埴輪の並びは行列やある場面を再現して生前の様子や葬列を表現していて、古墳の出土品からは死者に対する信仰がわかります。

ヤマト王権とは？

当時の日本列島には鉄を作り出す技術はまだなく鉄は延べ棒のような形で朝鮮半島からもたらされました。国を豊かにするために重要な鉄をめぐって各地の豪族は朝鮮半島とつながりのあったヤマト王権と結びつきを強めようとしてきました。ヤマト王権は豪族たちに朝鮮からの鉄や技術などを与える代わりに、貢物や兵士の動員などを義務づけました。

(中学の歴史P31)

つまり、ヤマト王権は権力が大きかったということです。

2、研究方法

埴輪の並び方が正確に残っていたという資料がある、「かみつけの里博物館」に行き、実際に出土した埴輪を中心に見学をしました。また、もっと詳しく知りたい場合はインターネットや学校の教材で調べました。インターネットで調べることについては、より正確な内容を使って書くためいくつかのサイトを見て書きました。

3、研究

3-1. 馬と日本

3-1-1. 古墳時代以前、日本に馬はいなかった

古墳時代より前の時代に馬の骨、馬具、馬の埴輪の出土がないため、日本には馬がいなかったと考えられます。

また、魏志倭人伝でも邪馬台国の時代（三世紀ごろ）の日本には、牛、馬、虎、豹、羊、鶺鴒（カササギ）がいなかったと記録されています（原文「其地無牛馬虎豹羊鶺鴒」）。

3-1-2. 馬はどこから来たのか？日本に馬が登場！！！！

下の「資料. 広開土王碑」から、4世紀終わり頃ヤマト王権が、百済に協力し高句麗と戦ったことが分かります。中国、朝鮮半島ではこの時すでに馬に乗っており、戦いにも用いられていたようで、きっとこの時、倭国のヤマトの人達は軍馬と戦ったのでしょう。軍事物資を運ぶ馬の姿、戦いで人を乗せ素早く動く馬の機動力に驚いたに違いありません。そしてきっと、自分の国に持ち帰りたいと考えたはずです。日本列島に馬が登場するのは古墳時代中期、西暦5世紀初めころといわれています。

以上のことから、4世紀終わりに朝鮮に出兵したヤマト王権の人が日本に馬を持ち帰ったと考えられます。

広開土王碑、碑文「百済、新羅は高句麗に従っていたが391年に倭が攻めてきて百済と新羅を従えてしまった。その為396年、好太王が水軍を率いて百済に従うように誓わせた。しかし、399年百済がその誓いを破り倭と通じていたため、軍を進めた。そのころ新羅が好太王に救いを求めてきたので、倭から新羅を助けた。」

414年に高句麗の好太王（広開土王）の功績を称えて建てられた。倭国が大規模遠征可能なほど、国力が高まっていたことがわかります。

（ビジュアル歴史P22）



資料. 好太王碑（ビジュアル歴史P22）

3-2 群馬とヤマト王権との関係

3-2-1. 群馬の豪族もヤマト政権に従っていた！？

「資料. 前方後円墳の分布」にもある通り、前方後円という共通の形が西日本だけでなく東日本でも見られ、ヤマト政権の権力に各地の豪族が従っていたことがわかります。

ヤマト王権やそれに関わりのある豪族の古墳は前方後円墳です。前方後円墳が集中しているところは現在の宮崎県、大阪府あたりだけでなく、群馬南部もかなりの数が集中していることが読み取れます。つまり、群馬県の豪族もヤマト政権に従っていたのでしょう。

1 全国の前方後円墳とその分布

4-2 造山古墳(岡山県岡山市)

全国で第4位の規模をもつ前方後円墳。近畿に対抗できる勢力が瀬戸内東部にあったことを示す古墳。(墳丘全長350m)



4-3 五色塚古墳(復元)(兵庫県神戸市)

当時の姿に復元整備された古墳。(墳丘全長194m)



A 前方後円墳の分布

(都府県の境は現在のもの。
'21世紀こども百科歴史館
による)



4-4 森將軍塚古墳(復元)(長野県千曲市)

4世紀後半につくられた前方後円墳。尾根につくられたため形状がいびつである。日本最大級のたて穴式石室をもつ。(墳丘全長約100m)

かいせつ 全国で約4,600もの前方後円墳が確認されている。西日本だけでなく、東日本にも広がっている。前方後円という共通の形が各地にみられるということから、巨大な古墳をつくる大王(大和政権の権力)に各地の豪族が従っていたことがわかる。

4-5 埼玉古墳群(埼玉県行田市) 武蔵最大の大型古墳群。「褒加多支箇大王」の名を刻んだ鉄剣を出土した稲荷山古墳(墳丘全長120m)がある。

考えよう 全国に広がった前方後円墳には、どんな意味があるのだろうか？



資料. 前方後円墳の分布 (ビジュアル歴史P20)

3-2-2. 群馬の豪族はヤマト政権と親密な仲だった？

私が行ったかみつけの里にあった二子山古墳と八幡塚古墳は、5世紀後半に作られました。この二つの古墳は両方とも前方後円墳でした。つまり、この古墳を建てた豪族もヤマト王権に従っていたことがわかります。

しかも「直径10km圏内に8基もの大型前方後円墳が作られている。これは、ヤマト地域を除けば特異な現象といってよい」と「資料. 5世紀後半群馬とヤマト王権の関係」にもある通りヤマト王権にただ従っていた豪族というだけではなく、とても親密な仲だったと考えられます。また王の眠る棺の形が舟形石棺でした。これもまた古墳の形と同様ヤマト王権と関係のある豪族の古墳の特徴と私の調べた色々な資料にありました。

倭名山東南麓は、5世紀後半の大型前方後円墳が集中する全国でもまれな地域であり、この頃の上毛野地域の中核であった。ここでは、50年足らずの間に、直径10km圏内に8基もの大型前方後円墳が造られている(下表参照)。これは、ヤマト地域を除けば特異な現象といつてよい。

この状況は、単に農業生産力の高まりだけでは説明がつかず、ヤマトとの特殊な政治関係や、農業以外の特殊な経済基盤などを考えなくてはならないだろう。これらの前方後円墳は、みな舟形石棺を内蔵しており、互いに緊密な関係にあったと推定されている。

| | | | |
|------------|-----------|---------|-------|
| 1.不動山古墳 | 墳長 94m | 高崎市綿貫町 | 井野川流域 |
| 2.岩鼻二子山古墳 | 墳長 115m内外 | 高崎市岩鼻町 | 井野川流域 |
| 3.井出二子山古墳 | 墳長 108m | 高崎市井出町 | 井野川流域 |
| 4.八幡塚古墳 | 墳長 96m | 高崎市保源田町 | 井野川流域 |
| 5.薬師塚古墳 | 墳長 105m内外 | 高崎市保源田町 | 井野川流域 |
| 6.平塚古墳 | 墳長 105m | 高崎市八幡町 | 碓氷川流域 |
| 7.上並榎福両山古墳 | 墳長 120m内外 | 高崎市上並榎町 | 烏川流域 |
| 8.小鷲寺古墳 | 墳長 90m内外 | 高崎市倉賀野町 | 烏川流域 |

資料. 5世紀後半群馬とヤマト王権の関係 (かみつけの里博物館展示物)

以上のことから、群馬にいた豪族はヤマト王権ととても深く関りがあったということが分かります。

3-3 馬と人間の関係

3-3-1. 埴輪にされた動物たち

下の表は、かみつけの里博物館にあった動物埴輪の展示を見て私がまとめたものです。

| 動物 | 登場シーン | 理由・役割 |
|-----|-------|-------------|
| 猪・鹿 | 狩り | 狩りの獲物として |
| 犬 | 狩り | 狩りのパートナーとして |
| 鶏 | 儀式 | 朝を告げる神聖な動物 |
| 馬 | 儀式 | 飾り馬・実用馬 |

表. 動物埴輪の種類

3-3-2. 埴輪にされた動物たちの写真



写真. 犬の埴輪



写真. 水鳥の埴輪

他の動物の埴輪

3-3-3. 馬の仕事

下の表は私が馬の仕事について調べた結果をまとめたものです。馬が日本列島に登場するのは古墳時代中頃。車や機械があるはずもありません。車や機械のない古墳時代中頃に最も有益な家畜が馬だったことが分かります。つまり、馬の数が権力の大きさを示すのもだと考えました。

| 馬の仕事、用途 | 実用的な目的か |
|--------------|---------|
| 荷物を運ぶ | ○ |
| 農業（田畑の耕作） | ○ |
| 軍事での乗馬 | ○ |
| 移動手段としての乗馬 | ○ |
| 儀式で飾りたて権力を示す | × |

表. 馬の活用方法

実際に、馬で重い荷物を運んでいるところを再現したミニチュア模型です。先頭には、馬を導いている人がいます。



写真. 荷物を運ぶ馬の模型

以上のことから、古代の人たちにとって馬はなくてはならない存在で、他の動物に比べ重要性が高かったと言えるでしょう。

3-4 飾り馬と実用馬

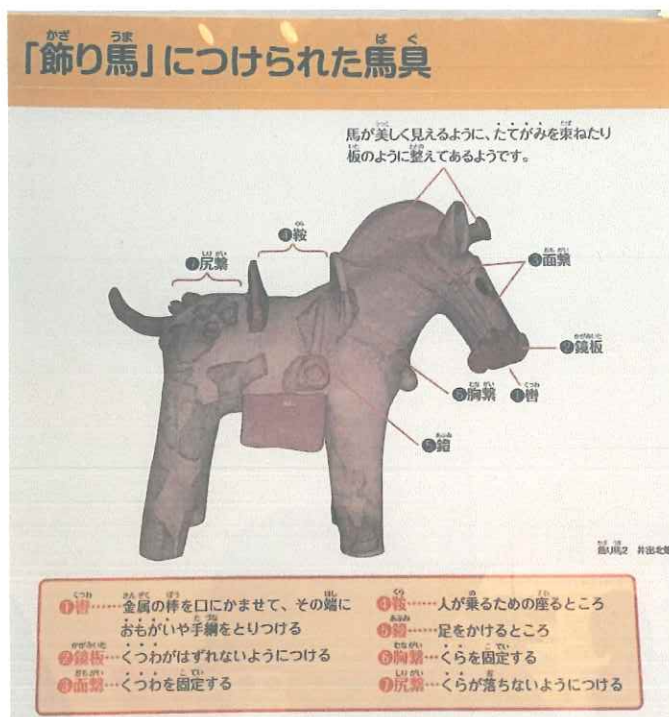
3-4-1. 飾り馬と実用馬

古墳時代の馬具には大きく分けて2種類あります。1つは金・銀で飾られた「装飾馬具」です。もう1つは鉄や木で作られた質素な「実用的馬具」です。岡山県の古墳で出土した馬具をこの2種類にわけると装飾馬具が約20%、実用的馬具は約80%です。また馬具が出土しない古墳も多かったようです。よって、古墳時代に飾り馬を持っていた豪族はかなり権力を持っていたことでしょう。

3-4-2. 飾り馬の馬具

飾り馬につけられた馬具は7つあります。また、馬を美しく見せるため、たてがみを束ねたり、板のように整えています。馬には、実際に人が乗れるように、人が乗るために座る鞍などがあります。この飾り馬から、実際の馬に似せて作っていることがわかります。また、実際に儀式に使われる中で、この

ように馬を美しく見せるようにしていたと考えられます。
馬の埴輪から、当時の飾り馬具の装着位置や、方法などを知ることができるそうです。



写真、飾り馬につけられた馬具



写真、飾り馬の埴輪のレプリカ



写真、出土した飾り馬

3-4-3. 出土した馬の埴輪の並び

私が行った八幡塚古墳で出土した54体の埴輪は榛名山噴火に伴う泥流により、埴輪の下半分の配置や向きが分かる状態で残った全国的にみても珍しい例のようで、古墳の隣にあるかみつけの里博物館ではその並びに関する展示がありました。埴輪の並びは王が行った儀式、座って行う儀式、イノシシ狩りなど全部で7シーンが見て取れ、その中で馬が多く置いてあるのがシーン7でした。シーン7で私が着目したのは王様の一番近くに馬が置かれていることでした。最前列に王がいて、その後ろに最先端の技術で作られた馬具をつけた飾り馬がたくさん並んでいました。

古墳時代、この地にいた王様は希少で貴重な馬を飾り、たくさん配置し最先端技術を周囲の人見せて権力を誇示したのでしょうか。周辺の権力者も儀式に呼ばれたかもしれません。その人は儀式をしたこの八幡塚の王様に驚きや畏怖を抱き、王様と戦うことをあきらめこの王様に従おうと考えたかもしれません。



写真、儀式に参加する飾り馬と裸馬

このように馬が1列で並んでいたそうです。

八幡塚古墳からは実用馬だけでなく、飾り馬も出土しています。このことから、古墳時代の群馬にはかなり権力を持った豪族がいたと推測できます。

4、研究のまとめ

- 4世紀終わりに朝鮮に出兵したヤマト王権の人が日本に馬を持ち帰るまで日本に馬はいなかった。
- ヤマト王権には馬や鉄など朝鮮半島から持ち帰った最新の技術があった。
- 最新技術を持ったヤマト政権に各地の豪族が従っていた。

古墳の形が前方後円墳
(ヤマト政権と関わりのある豪族の古墳の特徴)

王の眠る棺の形が舟形石棺
(ヤマト政権と関わりのある豪族の古墳の特徴)

群馬南部には前方後円墳がかなりの数集中している
(直径10km圏内に8基もの大型前方後円墳が作られた。これは、ヤマト地域を除けば特異な現象)



- 群馬の豪族はヤマト王権にただ従っていた豪族というだけでなく、とても関りが深い親密な仲だった。
- 古墳時代、馬は軍事兵器、耕作機械、荷物を輸送する動力、移動手段などさまざまな役目を担っていた。
- 古墳時代、馬はまだ数の少ない貴重な存在だった。
- 古墳時代の人にとって馬の保有数が権力の大きさを示すものだった
- 八幡塚古墳、二子山古墳を造った群馬の豪族は飾り馬を所有していたことから、全国的にみても力を持った豪族だった。

5、結論 ～群馬に馬の埴輪が多い理由～

古墳時代の群馬にいた豪族は、馬や最新技術を日本に伝えたヤマト王権と深い関りを持ち、とても大きな権力があつたため希少で貴重な馬をたくさん所有できました。彼が死後も自分の権力を示すため権力の象徴である馬の埴輪をたくさん作らせたと考えます。
だから、群馬に馬の埴輪が多いと私は結論付けます。

6、古墳時代の群馬を推測

調べた事をもとに古墳時代の群馬を想像してみました。

まず初めに群馬を治めていた豪族について調べて分かったことは以下の通りです。

- ・ヤマト王権と関りの深い人
- ・馬や鉄など最新技術を取り入れる人
- ・全国的にみても力を持った人

ここから群馬を治めていた人の人柄を想像してみました。

戦いなどの力で解決するのではなく、儀式で権力を誇示しムダな争いをさける知的な人。ヤマト王権や周りの豪族と交渉をする必要があるので、コミュニケーション能力が高い人。また、馬を飼育したり繁殖させたりする技術が必要なためこれらの最新技術を学ばねばならなかったことから、渡来人と積極的に交流し新しいことを取り入れようとした人。きっとこんな特徴の人だったのではないのでしょうか。

また、渡来人と積極的に交流していたのならば、群馬から大陸へ留学した人がいたのだろうか。または技術を持った大陸の人、渡来人が群馬に住んでいたのだろうか。などと想像してみました。そして古墳時代の群馬の人々の暮らしは、ヤマト王権と関りがあったことから鉄器を使って生活していたと推測されます。当時の最新技術を使い豊かな生活を送っていたということも考えました。

7、感想

今までは、埴輪についてあまり興味がありませんでした。しかし、この活動を通して埴輪について調べるうちに埴輪や古墳時代、その時代に生活していた人々について興味を持ちました。調べたことを元にどんな時代だったのか想像するのも楽しく思いました。

また、学校で習わないこともたくさん知れる過程で、意外なことやびっくりしたことなど、たくさん知ることができ、知識も得られるようになったのでこのことを生かしていきたいです。

参考文献

高崎市 かみつけの里博物館「上州はにわの里公園」『かみつけの里博物館』

群馬県公式デジタルはにわ図鑑『調べるHANI-図鑑』 <https://hani-zukan.jp/>

Pepy 『馬と人間との関わり、歴史は古い？時代別まとめ』
<https://er-animal.jp/pepy/40035>

群馬県『もっと埴輪（はにわ）や古墳について学んでみよう！』
https://www.pref.gunma.jp/03/c42g_00086.html

『岡山県古代吉備文化財センター』 <https://www.pref.okayama.jp/site/kodai/636846.html>
2004年5月掲載

『群馬県 歴史をかたる』 https://www.pref.gunma.jp/07/b21g_00310.html
ぐんま広報 30年10月号